

3. 解説：データにみる2026年2月衆議院選挙（Japa 日本専門家活動協会 芝原靖典）

2026年2月8日に執行された衆議院議員総選挙は、自由民主党が316議席（議席占有率68.0%）を獲得し、単独で憲法改正発議に必要な3分の2を超える歴史的な圧勝となった（候補者数が不足して失った14議席を足せば、実質330議席であった）。戦後初のケースである。改めて、総務省データ・各社出口調査・SNS分析等、データメインで今回の選挙結果を振り返る。

（1）当選者に関するデータ

〔選挙結果・当選者データ（総務省データ）〕

投票率は56.20%（前回比+2.8pt）。自民党は小選挙区で49.09%（前回比+10.6pt）、比例で36.72%（前回比+10pt）を獲得し、獲得票率を大きく上回る316議席（68.0%）と戦後初の単独3分の2超を達成した。18～19歳の投票率は43.11%と全体を約13pt下回った。

項目	データ	備考
有権者数	103,211,224人	—
投票率（小選挙区）	56.20%	前回53.42%
自民党得票率（小選挙区）	49.09%	前回38.46%
自民党得票率（比例代表）	36.72%	前回26.73%
自民党獲得議席率	68.0%（316議席）	戦後初の単独2/3超

〔当選者の年齢と多様性〕

当選者の平均年齢は54.7歳（前回比-0.9歳）。チーム未来が40.2歳と最も若く、自民（55.7歳）より10歳以上若い。新人当選者は106名（前回比+7名）。女性当選者は過去最高を更新したが、全体の12.3%にとどまる。世襲当選者111名のうち約9割を自民が占める。

（2）投票行動・世代別支持データ

〔世代別比例代表投票先（朝日新聞の出口調査）〕

全年代で自民党が首位。前は若者・現役世代が敬遠していたが、今回は回帰。デジタルネイティブ層（今回は18～40歳代）は今後、高齢層にシフトしていくので、その影響度も増す。

世代	自民党	中道改革連合	傾向
18-29歳	34～38%	10%未満	最低支持率ながら全世代で自民首位
30歳代	約36%	10%未満	中道支持は1割未満
40歳代	約38%	10%未満	中道支持は1割未満
50歳代	約40%	12～15%	中道支持がやや上昇
60歳代	約42%	15～18%	両党とも最高値を記録
70歳代以上	約40%	18～22%	中道支持が最も高い世代

【若者・現役世代（10～50代）の政党支持（共同通信出口調査）】

自民党が最多支持。2位・国民民主党（10.6%）、3位・参政党（8.4%）、4位・維新（6.9%）。野党第一党の中道改革連合は5位（6.5%）と若年層への訴求力の低さが浮き彫りとなった。

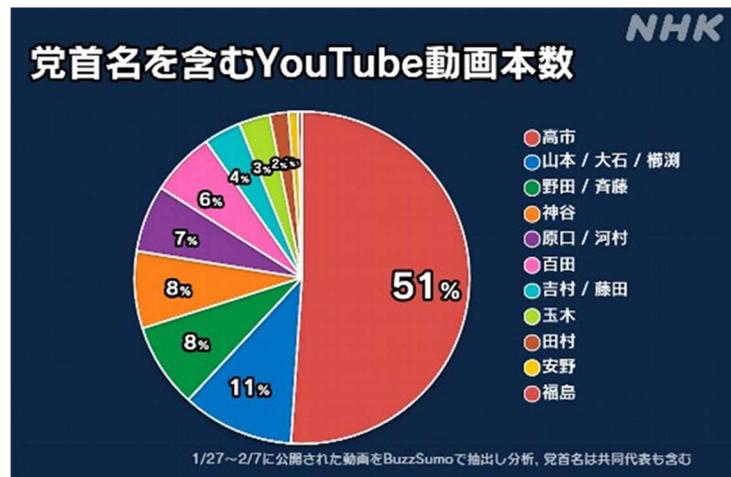
(3) SNS の存在感

【全体概況】

Meltwater 社の分析（2026年1月27日～2月9日）によると、選挙期間を通じて自民党が発話量・注目度の両面で圧倒的な優位を維持した。総投稿数は約1,040万件、総エンゲージメントは約7,900万件に達し、自民党の存在感は全体の30～40%を占めた。

【高市旋風と YouTube】

NHK が YouTube 動画 3,700 本を分析した結果によると、高市総理を含む動画が全体の 51% を占め、参院選での石破前総理（24.2%）の 2 倍以上。SNS を主戦場とした自民党の圧倒的な情報発信が特徴。



【投票判断に影響したメディア】

テレビ 30% がトップだが、SNS・動画投稿サイトが 24% と新聞（20%）を上

回った。40 代以下では SNS が最多（10 代 38%、20 代 43%、30 代 41%、40 代 33%）。

【在外投票のアナログ問題】

フランスでの在外投票受付は投票日より約 1 週間前（2 月 1 日）に締め切られた。投票用紙を大使館職員が外交郵袋に入れ飛行機でハンドキャリーするという仕組みが原因。デジタル処理が可能な時代にもかかわらず物理的輸送に依存する構造は、日本の行政デジタル化の課題を象徴している。

(5) 総括

- ① **複合的な投票行動が生んだ圧勝**：高齢層（社会保障・安定）、中年層（家計防衛）、デジタルネイティブ層が異なる動機ながらも同一の選択（自民党支持）へ収束した。
- ② **Z 世代の動向**：SNS を主情報源とする Z 世代が従来のマスメディア以上の政治的影響力を発揮。「チーム未来」の 11 議席獲得がその象徴。
- ③ **野党の受け皿不在**：「日本初の女性首相」への変革期待が高まる一方、中道改革連合は若年層への訴求に失敗。旧来の支持層依存から脱却できなかった。
- ④ **新時代への扉**：「シルバー民主主義」からの脱却の萌芽、「失われた 40 年」への問い直し、そして世界の構造変容に対峙しようとする意識の高まり等の萌芽。2/3 超の議席を持つ与党のリスクを直視しつつ、日本再生への期待が問われる。

補：本解説の参考資料等は <https://shikumi-gunzo.hatenablog.com/>、バックナンバーは <https://www.japa.fellowlink.jp/column>